

令和7年度博物館事業の計画案について

事業番号	事業名	事業概要	備考(新規、変更点等)
1	企画展開催費	鳥取県の自然、歴史、美術分野の資料、作品、その研究成果等や、世界的・全国的に貴重な作品等について、企画展として広く県民に紹介する。 <博物館主催> (1) 超絶!昆虫ワールド(仮称) (2) 大カプコン展(仮称) (3) とつとりの藩と城 歴史・自然史・美術工芸(仮称) <美術館主催> 江戸絵画から《ブリロの箱》まで 鳥取県があつめた美術コレクションのバリエーション!(仮称)	○令和6年度当初予算で債務負担行為設定済
2	企画展開催費(R8開催分)	令和8年度に開催を考えている企画展について、展示に必要な作品、資料等の所有者等との借用交渉など、開催の前年度から必要な準備を行う。 <博物館主催> (1) 妖怪・幻獣列伝(仮称) (2) 名和長年とその一族(仮称) <民間等との共催> 博物館を会場に民間事業者が主催する世界的・全国的に貴重な資料・作品等を県民に紹介する企画展	
3	博物館運営費	県民に快適な鑑賞環境が提供できるよう、来館者等から意見をお聞きしながら博物館施設の運営を行う。また、博物館が収蔵している約20万点におよぶ資料を害虫やカビ類などから守るための被害調査や防除対策を行う。	○事務室系統空気調和機更新工事 ○空調機付帯加湿器取替整備
4	自然史事業費	自然史資料(地学・生物)の収集・保存と調査研究を行い、その成果を常設展示と教育普及活動により県民に紹介する。	○標本保管用スチール棚購入
5	歴史・民俗事業費	人文資料(考古・歴史・近現代・民俗)の収集・修復・保存と調査研究を行い、その成果を常設展示と教育普及活動により県民に紹介する。	○考古資料整理員を配置
6	美術事業費	美術資料や歴史資料等を、第3展示活動室(旧美術展示室)を会場に、年4~5回の展示替えで内容が更新されるテーマ性のある常設展示によって広く県民に紹介する。	○美術資料は、附帯意見により博物館所蔵品となる絵画・工芸品を中心に展示
7	学習支援事業費	主に県内の教職員を対象に、博物館の利用方法や収蔵資料を学習資源として活用する方法、授業相談などについて、各分野の学芸員が相談に応じる「ふるさとキャリア教育」の推進や「教育DX」への対応など、新たな社会的ニーズに確実に対応する。	○展示会場の確保が難しい場所においてミュージアムカー(公用車)による展示及び解説を実施

令和7年度企画展
「超絶！昆虫ワールド（仮称）」 開催要項（案）

1 趣旨

昆虫は世界から110万種以上が知られており、全生物種のほぼ半数を占めるという驚異的な多様性をもつ生物である。種類の多さだけでなく、そのすがた形や生活も様々で、海中域を除く地球上のあらゆる場所に進出している。昆虫はまた、その美しい色や不思議な形から多くの関心を集めてきた。特に熱帯地域の昆虫には奇想天外なものが多く、戦うための角や隠れるための擬態など驚きの進化をとげている。さらに近年は昆虫食が食糧問題の解決策の一つとして注目を集めている。一方で、人間活動等の影響を受けて滅びゆく昆虫も多く存在し、人間との関係を見つめなおす時に来ている。本企画展では、大型模型やハイスピードカメラによる高精細映像を通して昆虫のおもしろさを体感するとともに、当館や専門家が所有する日本や世界の昆虫標本、さらには生きた昆虫の生体展示を通してその多様性を紹介する。加えて著名な研究者による講演会も行うことで、昆虫についてより深い学びの場を提供したい。

2 会期：令和7年7月12日（土）～9月15日（月・祝）：66日間

※7月14日（月）、7月22日（火）、7月28日（月）、8月4日（月）、8月18日（月）、8月25日（月）、9月1日（月）、9月8日（月）は休館

3 会場：鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 主催：「昆虫展」実行委員会、読売新聞社

5 入館料：一般700円（前売り・団体500円）

※大学生以下の方、70歳以上の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者は無料

※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。

6 借用先・協力団体等：大阪市立自然史博物館、伊丹市昆虫館、箕面公園昆虫館、橿原市昆虫館、九州大学総合研究博物館、北九州市立自然史・歴史博物館、倉敷市立自然史博物館

7 展示内容

第1章 昆虫の進化と多様性

昆虫化石／昆虫の進化／多様な昆虫

第2章 ようこそ！巨大昆虫の森へ

巨大昆虫模型／ハイスピードカメラによる昆虫高精細映像／日本の昆虫／体験型展示

第3章 奇想天外！熱帯ジャングルの昆虫たち

世界の昆虫標本・生体展示／熱帯ジャングルの昆虫調査

第4章 昆虫の体のふしぎ

昆虫の形のふしぎ（角、触角、目など）／昆虫の成長のふしぎ（卵、幼虫、蛹、成虫）

第5章 昆虫を食べる！？

日本の昆虫食／東南アジアなど世界各地の昆虫食

第6章 鳥取県の昆虫コレクション

鳥取県立博物館のコレクション／地域の収集家が集めた昆虫コレクション

第7章 めざせ！昆虫博士への道

昆虫博士の調査アイテム／昆虫博士の新種発見物語

第8章 絶滅の危機にある昆虫たち

鳥取県の絶滅危惧昆虫／保護の取り組み

第9章 鳥取県生物学会「蟲部」の活動

活動内容／各部員の活動紹介

8 関連事業：昆虫研究者による講演会

**令和7年度企画展
「大カプコン展」開催要項（案）**

1 趣旨

近年、eスポーツの盛り上がりや高性能なデバイスの普及もあり、ゲーム産業の国内市場規模は2兆円を突破、国内ゲーム人口も5000万人を超えました。家庭用テレビゲーム機の登場からこの半世紀で急激に変化する「ゲーム」という文化について、その認識をアップデートする必要があります。

ゲームソフトメーカーである株式会社カプコンは2023年に創業40周年を迎え、世界中でいまも愛される『ストリートファイター』シリーズや、映画化された『バイオハザード』シリーズなど、多くの人気タイトルを開発してきました。カプコンの歴史を振り返ることは、日本が世界に誇る“Cool Japan”を牽引するコンテンツの一つとしてだけでなく、デジタルコンテンツの開発を考える上でも非常に重要な視点といえ、“Society5.0”を迎えるわたしたちの社会にも大きな影響を与えるものです。

本展では、ゲームソフト開発を支えるクリエイティビティに焦点を当て、カプコンが誇る人気タイトルの原画や企画書といった貴重な資料と合わせて紹介します。ゲームを構成するクリエイティブやテクノロジーの歴史と進歩を概観し、社会や教育の未来も考えます。

2 会期

令和7年10月19日（日）～12月7日（日）（50日間）

※10月20・27日、11月4・10・17・25日、12月1日は休館

3 会場

鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 観覧料

一般800円（前売り・団体 600円）

※大学生以下の方、70歳以上の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者は無料

※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。

5 主な展示物（予定）

『ストリートファイター』『ロックマン』『逆転裁判』『モンスターハンター』『バイオハザード』『戦国BASARA』など、カプコン歴代のゲームソフトの世界観を示す原画や企画書、体験型装置、CG・音声など。

6 関連事業

eスポーツ大会など（未定）



大カプコン展

世界を魅了する
ゲームクリエイション

Capcom Creation
Moving hearts across the globe

令和7年度企画展

「とっとりの藩と城 歴史・自然史・美術工芸（仮）」開催要項（案）

1 会期 令和7年5月1日（木）～令和7年6月29日（日）（53日間）
休館日 5/7（水）、5/12、5/19、5/26、6/9、6/16、6/23（いずれも月）

2 会場 鳥取県立博物館 とっとりの藩と城（第3展示活動室）（旧美術展示室）

3 趣旨

鳥取県立博物館は、昭和47年（1972）自然豊かな久松山の麓、鳥取藩の象徴である藩主池田家の居城があった国史跡「史跡鳥取城跡 附太閤ヶ平」内に、自然、歴史・民俗、美術の総合博物館として開館しました。令和7年（2015）3月、美術部門が分離独立、倉吉市に鳥取県立美術館として開館し、同年5月、当館は自然史、歴史・民俗、美術工芸の総合博物館として新たな歩みをはじめることになりました。

新たなスタートを切る当館では、旧美術展示室をリニューアルし、新たに鳥取の歴史・自然を象徴する「鳥取城跡」とその城山である「久松山」を核とした、所蔵品による歴史・自然史・美術工芸の総合的な企画展示「とっとりの藩と城」を開催します。

展示では、鳥取県の発展の礎となった鳥取藩や鳥取城の歴史や文化、またその背景について、国内屈指の大家文書である“鳥取藩政資料”や旧藩主池田家ゆかりの大名道具、絵画、やきものなど多彩な美術工芸品を用いてわかりやすく紹介するとともに、久松山の地質や生物相を事例に、鳥取県の豊かな自然環境について紹介します。

史跡内に位置する当館において、鳥取城や久松山といった地域の自然史・歴史・美術工芸を一体的に紹介し、県民のみなさんに“鳥取県らしさ”について考えていただくよい機会となるとともに、令和7年4月13日から10月13日まで開催される大阪・関西万博に伴って増加するであろう国内外の観光客に向けて、鳥取県について知ってもらい格好の機会となると考えます。なお、本展終了後、一部資料の展示替えを行い、常設展に移行する予定です。

4 展示構成（案）

第1章 鳥取城・久松山をめぐる歴史と自然史

第2章 鳥取藩と藩主池田家の230年

第3章 近世・近代鳥取の歴史遺産

第4章 鳥取の美

5 観覧料（常設展観覧料で入館可）

一般180円（20名様以上の団体150円）

※大学生以下の方、70歳以上の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者は無料。

展示品イメージ すべて鳥取県立博物館所蔵



鳥取城御城下絵図



鳥取藩初代藩主 池田光仲画像



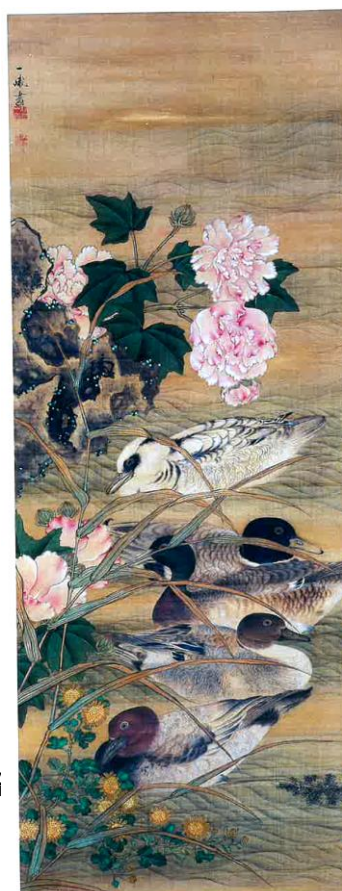
3代藩主池田吉泰所用具足



刀 銘 出羽大掾藤原国路



因久山 獅子伏香炉 勘助



沖一峨 芙蓉に群鴨図(双幅のうち)

令和7年度 企画展

江戸絵画から《ブリロの箱》まで
鳥取県があつめた美術コレクションのバリエーション！（仮称）

開催要項（案）

1 趣旨

令和7年3月30日開館の鳥取県立美術館コレクションギャラリーで紹介される美術作品は、鳥取県がこれまで50年以上の歳月をかけて収集してきたものであり、「鳥取県の美術」を中心に、「国内外の優れた美術」、「同時代の美術の動向を示す作品」によって構成されています。

本展は、その作品群をより多くの県民の方々に楽しんでいただくため、鳥取県東部地区に位置する鳥取県立博物館の特別展示室を会場に、選りすぐりの作品によって展示内容を組み立て、企画展として開催するものです。会場では、江戸時代の優れた画家たちの作品や、近代以降の民藝運動に関係した様々な工芸家の作品、そして前田寛治や伊谷賢蔵、辻晋堂、塩谷定好、植田正治といった鳥取県を代表する美術家たちの作品が並びます。さらに、近年収集した作品の中から、アンディ・ウォーホルの《ブリロの箱》、フランスの画家ルオーの作品、日本の現代美術をリードする森村泰昌などの作品も紹介し、拡大していく鳥取県の美術コレクションの魅力に触れることのできる機会を提供します。

2 会期

令和8年2月28日（土）～3月22日（日）（20日間） ※会期中の月曜日は休館

3 主催

鳥取県立美術館、鳥取県立博物館

4 会場

鳥取県立博物館2階 第1、第2特別展示室

5 観覧料

一般：400円（20名以上の団体：300円）

※70歳以上・大学生以下、学校教育活動での引率者、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者は無料

6 展示内容

「鳥取県の美術」、「国内外の優れた美術」、「同時代の美術の動向を示す作品」の各テーマから、合計150点程度の作品を選定し、紹介します。

7 関連事業（予定）：

- ・外部講師による、出品作品と関連した内容のワークショップ
- ・学芸員と一緒にめぐるギャラリー・クルーズ（作品の楽しみ方をレクチャー）

8 担当

地域社会振興部美術館 三浦学芸担当参事

電話0857-26-8045

令和7年度 企画展

江戸絵画から《ブリロの箱》まで

鳥取県があつめた美術コレクションのバリエーション！（仮称） 出品候補作品画像



曾我蕭白《囲碁図屏風》紙本墨画 石谷コレクション



クールベ《まどろむ女（習作）》油彩・カンヴァス



佐伯祐三《オーヴェールの風景》
油彩・カンヴァス



前田寛治《棟梁の家族》油彩・カンヴァス



辻晋堂《沈黙》
陶彫

橋本興家《鳥取城》多色木版画



ガラスケース内のウォーホル《ブリロの箱》
木・インク 1968年